製鐵所四七十工場一齊作業復活

入門職工人夫一萬五千餘

場内何等不穩なけれど警戒は依然嚴重を極む

九日に至り林立せる五百餘の煙筒より再び黑煙を吐くに至り七十四工場の機械か一齊作業を復活せる八幡製鐵所作業開始二日目の十日は作業の爲め入門せる職工一萬三百十七人職夫四千三百十四人人夫六百七十六人にて合計一萬五千三百十七人に達し九日夜より十日朝に至る間場内には何等不穩の模樣なかりしが五百五十名の警官と百五十の憲兵は依然として警戒の手を緩めず各工場に就き嚴重なる警戒監視をし居れり

▲長官以下

愁眉を開く

十日八幡製鐵所は前記の如く職工人夫職夫合はせて一萬五千三百餘人の入場ありて何も眞面目に作業をなし居り更に怠業をなす者なきより白仁長官以下製鐵所幹部は何れも愁眉を開きたり

▲勞友會幹部

診療所に秘密凝議

伍長組長の排斥を企つ

長官の回答が誠意なきものとなしたるため憤慨せられたる勞友會にては九日午後八時より春長樣なるが其結果同會が今後如

の町診療所に於て幹部五十餘名集合して密かに協議をなしたる

▲政府より重要命令を受意怠狀態視察のため來幡中なりし警保事務官天宅敬次氏は既に職工が作業に從事したるを以て九日午後四時當地出發歸京せり

▲淺原西田

收監さる

小倉分監へ

治安警察法違犯として起訴され八幡警察署に於て佐藤平田稀豬判事の審問を受つゝありし勞友會の長淺原健三郎副會長西田健太郎の兩名は取調終了し淺原は四日午後九時西田は十日夜十時小倉分監に收監されたり

▲警戒の

憲兵警官

疲勞の極に達す

巡査二名卒倒す

五日の怠業當日より殆んど不眠不休の狀態にて警戒監視に努めるたる憲兵警察官は職工が作業に從事して平常の狀態に復活したるを見て心緩みしと一つは連

▲事務官歸京

十日午後出發

視察のため來幡中なりし警保事務官天宅敬次氏は既に職工が作業に從事したるを以て九日午後四時當地出發歸京せり

八分八幡驛着列車にて急遽上京せしがコハ東京の友愛會本部と聯絡打合せのためならんと觀測されつゝあり

▲安河内知事

長官訪問

安河内知事は十日午前九時廿三分八幡驛着列車にて來幡し八幡警察署に安達檢事正、中山憲兵隊長、野村八幡警察署長と共に製鐵所に白仁長官を訪問せり

▲長友愛

なりて

なし

勞友

▲出帆時日ハ變更スルコトアルベシ
▲貨物主要驛ニテ乘降主要驛及大阪天津上海行各等船車驛格切符發賣
▲左記各船中△印ハ船客御斷り

大阪港出帆

北海道行 横濱、函館、小樽行 △神戸丸 十九日發

臺灣行 神戸、門司、基隆、安平、打狗行 下見

胃病

イカ